

(仮訳)

衆参両院合同会議における
ベニグノ・アキノ 3 世・フィリピン共和国大統領演説
2015 年 6 月 3 日、参議院本会議場

国会議員の皆様

演説を始めるにあたって、町村信孝前衆議院議長のご逝去に対して心からのお悔やみを申し上げます。フィリピン国民を代表し、皆様、日本の国会及びこの偉大な政治家のご遺族に心から御見舞を申し上げます。

ご臨席の皆様、フィリピン共和国大統領として 6 度目の来日を果たし、日本の美しさに触れますと、私が心から称賛する貴国の文化の真髄を物語る一つの出来事を思い出さずにはられません。

おそらく皆様の中には、ドイツの有名なサーキット、ニュルブルクリンクでの出来事をご存知の方もいらっしゃるでしょう。そこでは世界有数のドライバーが最高の自動車を決めるべく、最速かつ最新の車でラップタイムを競い合います。

その中でも、特にある対決の話を知りました。欧州車のポルシェ 911 ターボと日本の日産 GT-R が、市販車としてどちらが最速かを競ったのです。日産は競争相手のホームグラウンドで全てが相手に有利に働く中、自らの卓越した性能を証明しようとしたといえます。そしてそれを実際に証明した結果、ラップ対決でライバルを制することができたのは、日産の一致団結したアプローチによるものであると多くの記事が紹介したのです。

多くの人々に驚きをもって受け止められたこのことも、日本人にとっては当然であったかもしれません。なぜなら日本人は、勤勉さと創造力、そして卓越した性能のたゆまぬ追求こそ、日本製品の証であると理解しているからです。で

すから、20世紀の後半、世界中の企業がこぞって「日本方式」を学ぼうとしたのも当然のことです。彼らは、「このように高い品質と効率性は、どのようなプロセスを用いると実現できるのか」という疑問への答えを求めたのです。

ご臨席の皆様、何よりもまず、日本方式は、変化することを否定しないものです。その基礎には適応と創意工夫があり、また、その中には、知識に対する渴望と好ましい変化を実現したいという強い願望があります。このように、常により良いものを作り上げていくことは、あらゆる面で完璧を追求する日本人の姿勢の表れです。貴国はこれにより、歴史の中で直面せざるをえなかった多くの困難を一致団結して乗り越えてきました。貴国において製造ラインやサプライチェーンに適用されてきた、継続的により良いものを目指す「カイゼン」という哲学は、今では政府首脳にも広く用いられています。

実際に、このプロセスは幾世代にも渡って脈々と流れる日本の精神の真髄です。このことは、19世紀の日本の開国を振り返ればすぐにわかります。開国によって日本社会は変貌を遂げました。それまでの日本は技術面で大きく遅れをとっていました。当時、他国が手に入れることができた先端技術を考えると、日本はゼロからの出発というよりも、むしろマイナスからの出発であったといえます。日本は国を挙げて「文明開化」を推し進めたからこそ、変革を実現しました。封建主義は崩壊し、まさにこの国会が開設されました。かつて鎖国政策をとっていた国は、外の世界の知識を受け入れ始め、新たに見識を広めるため、使節団を派遣しました。鉄道、電信システム、銀行が国中に作られ、初歩的な溶鉱炉はやがて近代設備を備えた工場に変わりました。こうして数世代のうちに日本は当時の先進国の仲間入りを果たしたのです。その後も、戦後の新たな現実を前に日本は再び現状の変革を目指し、国家の再建に全力を傾けました。その結果、日本は経済大国となって多くの国家を支援してきましたし、これからも支援し続けるでしょう。

社会が非常に大きな課題に直面する度に、日本は何度も適応してきました。日本は、これらの課題に向き合い、そして克服し、更なる高みに到達してきました。近年日本が直面している懸念もそうした課題の一つです。私がこうしたことをお話しした理由は、我が国には「過去を振り返らざる者は、進むべき道

を見失う」という格言があるからです。日本の過去は、したがって、日本が再び現在の課題と向き合い、より優れた結果を達成する十分な根拠になると言えるでしょう。

この点を踏まえれば、日本、そして実際にはその他の世界各国が、この数十年の間に対処しなければならなかった不幸で複雑な経済状況に対応するためには、変革と継続的な改善という貴国の文化に目を向けるとよいのではないのでしょうか。このような日本の精神は、安倍晋三総理のリーダーシップに具現化されており、それにより、官僚組織、経済、社会全体において構造的かつ抜本的な変革がもたらされていると思います。私は中でも、男女共同参画の推進に感服しております。この取組は、より公平で包摂的な社会の追求に多大なる貢献をするのみならず、新たな活力を日本の労働市場に吹き込んでいると思います。また、社会の流動性と能力主義に新たな意義を与える安倍総理の取組は、賢明さ、独創力、エンパワメントを軸とする経済哲学とともに、すでに実を結び始め、日本の景気は 2014 年の第 4 四半期から景気後退局面を抜け出しています。

現在、貴国が実施している改革は、これまでの日本製品の競争力を踏まえると、より一層大きなインパクトをもたらすことは間違いありません。私は、競争は大木成る繁栄をもたらすものであって、懸念したり恐れたりするものではなく、なる日が訪れること、そして既に多くの日本企業がそうしているように、我が国に長期的な事業基盤を確立する日本企業が今後も増えていくことを期待しております。私たちは今、イノベーションが公平かつ開かれた市場にとって大きな利点になるという認識の下、日本とフィリピンのビジネスリーダーと両国民が協力してイノベーションを実現できる時代の幕開けを目の当たりにしています。そして、この両国間の協力は、継続されるだけでなく、今後加速させることもできるのです。というのも、ここ数年の我が国自身の変革により、フィリピンの労働力は、より熟練し、独創的になっているのです。

ご臨席の皆様、フィリピンは貴国の友人として、日本経済の命運が我が国の経済と密接に結びついていることを認識し、現在日本が進めている経済再生の取組を歓迎いたします。貴国は我が国が二国間自由貿易協定を締結している唯一の国です。貴国は 2014 年の我が国最大の貿易相手国であり、貿易総額は 191 億

米ドルにまで達しています。フィリピンは日本にとって ASEAN 加盟国の中で最も急成長を遂げている観光市場であり、日本はフィリピンにとって第 3 位の観光市場です。また、両国の経済関係を踏まえ、フィリピン国民の能力と日本の労働市場のニーズを一層効果的に結びつける法案が本国会において審議されていることも歓迎いたします。両国間の協力がお互いにとって有益であることは疑いありません。例えば、日本人が所有し、管理する船の 70 パーセントにフィリピン人が乗船していると言われていています。我が国の人材が貴国の船舶業界に人材を供給する一方で、フィリピン人乗組員は最新のテクノロジーに触れることができます。こうして彼らが母国に持ち帰った知識が広まることで、フィリピンの海運産業は一層強化されることとなります。

ご臨席の皆様、我々の地域に平和と安定が広がる時に実現できる輝かしい実例を、日本とフィリピンが経済的及び人的な関与を通じて示すことは大きな誇りです。したがって、両国が最も大きな声を上げて、今日脅威にさらされている地域の安定を擁護していることは当然の流れといえます。東アジアと東南アジアの海洋及び沿岸地域の繁栄は、モノと人の自由な移動に大きく依存していますが、国際法によって明確に付与された範囲の外側で地理的境界や権原を書き換える試みによって、この繁栄が損なわれる危険にさらされているのです。

我々が直面する共通の課題に取り組む上で、日本の進むべき道を決めるのは日本にほかなりません。しかし、既に認識されているように、国内の問題はグローバル化が進む世界というタペストリーの中に織り込まれた模様に過ぎないのです。したがって、我が国は、日本が平和の維持のために国際社会に対して自らの責任を果たす上でより積極的な立場を取っていることを特に念頭に置き、本国会で行われている審議に最大限の関心と強い尊敬の念をもって注目しています。

私は平和を好むフィリピン国民の性格が日本人の中にも存在すると見ています。我々両国は常に対話を好み、たとえ繰り返し拒絶されようとも、全力を尽くして緊張緩和を図り、平和的な方法を用い国際的に認められた規範に則って、意見の相違を解決しようと努力します。ここで、我々両国が共に困難を抱えているある国家に対して、私が投げかけた質問を共有させていただきます。すなわ

ち、政府というものが、権力を負託された国民に尽くすために存在するのであれば、繁栄の必要条件である安定を維持することこそが政府の責務ではないのでしょうか。また、なぜ、緊張を高めることが、国民の生活をより良いものにするという最も大切な目標の実現に資することになるのでしょうか。

ご臨席の皆様、日本は、現在、我が国が戦略的パートナーシップを築いている2カ国のうちの1カ国です。したがって、我が国にとって、日本との関係は、地域の公域における自由を確保するための最前線にあります。我々の関係は、今後確実に強化されていくパートナーシップです。なぜならば、この関係は、単なる実用性に基づくものではなく、共通の価値と対等な立場での相互尊重に基づいているからです。両国にとって、調和とは共に実現するものであって、強制によって一方的に命令されるものではないことを我々は理解しています。我が国は、軍事力が意見の相違を解決するための決定的な力にはなり得ないという考えを断固支持します。

2世代以上にわたり、日本が平和にコミットしてきたことに疑いの余地はありません。また、日本が友好国を支援し、より公平で進歩的な世界秩序を創り出すことにコミットしてきたことについても同様です。先の大戦は我々全員にとって悲惨なものであり、大戦がもたらした苦しみに対し、全ての人々が辛い思いを覚えました。しかし、その灰塵の中から、我々両国民の関係が不死鳥のように蘇ったのです。私はこの2世代の間に成し遂げられた功績を振り返り、畏敬の念を覚えます。貴国は、過去の傷を癒す義務を果たす以上のことを成し遂げ、真に利他的な意志をもって行動しました。自国を復興させたばかりでなく、我々の復興にも尽力してくれました。貴国の利他的な行動がなければ、我々は復興から取り残されたことでしょう。我が国のガバナンスがしっかりしていない時期にあって、好ましいとはいえない人物と付き合いが必要があった時でさえ、貴国は与えることをやめませんでした。我が国の発展に対する貴国の貢献は、単に大規模であったというだけではありません。長年にわたり一貫して続けられてきたのです。数ある国の中で、日本はフィリピンにとって最大の政府開発援助供与国です。災害が発生すれば、我々はお互いに現場に向かい、半ば自動的に支援の手を差し伸べます。この精神を説明する上で最も適切な例は、台風ハイアン（注：平成25年台風第30号）の後の出来事でしょう。この時、日本の

「いせ」という艦船がレイテ湾に来ました。かつて戦艦「伊勢」は、現代史上最大の海戦に参加するために我が国の海域を航行しました。しかし、この度、同じ名前の「いせ」は、救援、思いやり、そして連帯を被災者に届けてくれたのです。2011年の東日本大震災と津波の後、私はフィリピン国民を代表して両国間の連帯を示すために石巻を訪れました。レイテ湾であれ、石巻であれ、災難というものがいかに共通の人間性を浮き彫りにし、我々を結びつけることになるのか見て取ることができます。

また、ミンダナオ島の和平プロセスにおいて貴国が長期にわたり極めて重大な支援をしてくださったことにも、心より感謝の意を表したいと思います。2011年8月、貴国は、突然の話であったにもかかわらず、躊躇することなく、信頼と誠実さを醸成する環境を提供して下さり、私は我が国の少数派のムスリムの指導者の懸念を直接聞くことができました。この会談が和平交渉に向けた大きなきっかけとなるとともに、和平プロセスにおいて貴国が果たした様々な役割と草の根の開発支援のおかげで、2014年3月、我々は包括和平合意を結ぶことができましたのです。現在、我が国の議会において基本法が審議されています。この法案が成立すると、バンサモロのための公平かつ真の意味での自治がもたらされます。

フィリピンの経済成長を促進し、継続させ、公平かつ包摂的な社会を実現するという目標に近づけるための支援、災害から復旧し脆弱性の克服を助けるための支援、そして、紛争地域における平和と安定を促進するための支援に対して、フィリピン国民を代表してお礼を申し上げます。（日本語で）どうもありがとうございます。

ご臨席の皆様、我々フィリピン国民は、日本国民と同様に、長きにわたる友情を非常に大切にします。実際に、両国の関係は（両国の国旗に太陽が描かれていることから）「二つの太陽の友情」に例えられます。両国が関係を更に深めることにより、一つになった我々の光が、両国の国民と地域をより一層明るく照らすことになるかと確信しています。

最後に、私の個人的な思い出をお話させていただきます。1986年、私は母（で

あるコラソン・アキノ大統領)に随行し、このとても美しい国を訪問しました。その当時、母は次のように述べました。「両国は…希望と期待を胸に共に将来に目を向けていきましょう。両国が協力し合えることは数多くあります。」私も、今日ここで、その明るい未来に対する期待をもう一度お伝えしたいと思います。両国が今後も積極的に関与することが、地域における安定、繁栄、そして包摂性を実現するための支えとなるのであり、これに大いに期待しようではありませんか。今や更なる高みに到達しようとしている両国の関係がこれから実を結んでいくことを、私は期待しています。

参議院議員及び衆議院議員の皆様のご健勝とご活躍を祈念致します。

ご清聴ありがとうございました。

(了)